

### TPP問題に対する農政連の取り組みについて



宮城県生協連理事

**鷺尾 衛**

(みやぎ仙南農業協同組合 常務理事)

TPP（環太平洋経済連携協定）問題は、いつの間にか米国との交渉が焦点となり、米国との合意が入り口で最優先とのマスコミ報道が横行していますが、果たしてそのようなことで良いのでしょうか。

系統農協はTPPに参加すること自体に原則反対であり、私も基本的にはそう思います。加えて、今の安倍政権においては、それがなし崩しにならないかとの不信があります。

民主党政権時の何も決められなかった政治から「決められる政治」を旗印に掲げ、選挙では公約になかった政策を強行、また消費税増税の反面、法人税率を下げるといふ庶民いじめとも取れる財界優先・大企業ありきというのが目につきます。

国論を二分している原発再稼働問題でも、再稼働にまっしぐらの状況です。また憲法の改正

議論における解釈論や奇策としか思えない集団的自衛権の限定容認論等、暇がない程の強引な手段と拙速な方法が目立ち、日本をどのような国にしたいのかと大変不安になります。

この様な背景を考えると、今の全国農政連のTPP反対運動は果たして的確な方向か疑問に思います。これまでも何度も裏切られているにも関わらず、言わば自民党農政へのぶら下がりから、相も変わらず脱出できないように思えます。

現在の農政連活動は運動というよりは、要請でありお願いです。2月の全国集会では、「生産現場には不安と動揺が広がっており、それらを払拭するため決議を守り続けてほしい」と、与党幹部や農林議員に強く求めました。これに対して「聖域を守れない場合は脱退も辞さない。決議を守る」と明言されたよう

ですが、果たしてどうでしょうか。

JA 全中は、日米首脳会議やAPEC 貿易担当者会合の前後に交渉が動く可能性があることを踏まえ、全国一斉県別集会を開き、地元選出国會議員らに決議の実現を求める要請を行こととしました。

この様な自民党政権への要請に重きを置くより、地域一人一人の農家組合員の意識を統一し、かつての米価運動のような組合員全体としての運動を模索すべきと思います。また、他団体とも真の運動体として一致した上で取り組まなければ、また自民党政権に裏切られるという繰り返しになるだけではないか、と憂鬱な今日この頃です。

# 宮城県生協連の活動

## ● 宮城県生協連第 44 回総会（2013 年度）第 6 回理事会報告

第 6 回理事会は、3 月 18 日（火）午後 1 時 30 分より、フォレスト仙台 4 階会議室において開催され、理事 9 人、監事 2 人が参加しました。

議長に齋藤昭子会長理事を選任し、議事に入りました。

### 【議決事項】

第 45 回通常総会関係事項決定の件について、野崎和夫専務理事より提案があり、原案通り可決承認されました。

### 【協議事項】

- 第 45 回通常総会議案書（第 1・4 号議案「2013 年度事業報告・2014 年度事業計画」）第 1 次協議の件について、野崎和夫専務理事より提案があり、協議しました
- 被災者生活再建支援制度の

拡充を求める運動について、野崎和夫専務理事より提案があり、協議しました。

### 【報告事項】

- 東日本大震災からの復旧・復興に向けての取り組みについて、出席した理事より報告があり、全員異議なく了承しました。
- 2013 年度生協役職員研修会、監事研修会、灯油関連、原子力に頼らないエネルギー政策を求める活動、TPP から食とくらし・いのちを守るネットワーク宮城の活動、「安倍政権に、私も言いたい！県民集会」の開催案内、NPO 法人消費者市民ネットとうほくの活動について、野崎和夫専務理事より報告があり、全員異議

なく了承しました。

- 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動、消費税率引き上げをやめさせる活動について、加藤房子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。
- NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動について、鈴木由美常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

### 【文書報告事項】

生協連活動報告、行政・議会関連報告、各種委員・共催・後援依頼・広告協賛等について、文書により報告があり、全員異議なく了承しました。

## ● 2013 年度冬灯油決定価格、2014 年度夏灯油暫定価格について

### 2013 年度 冬灯油決定価格

2013 年度冬の生協灯油精算価格を以下のように決定し、暫定価格との差額 1 ㍴当り 1.0 円（1 缶 18 ㍴当り 18 円）の割戻しを行います。

期 間	9/30～1/17		1/18～3/31		4/1～4/25(消費税 8%)	
	1 ㍴	1 缶 18 ㍴	1 ㍴	1 缶 18 ㍴	1 ㍴	1 缶 18 ㍴
お任せ給油	99.0 円	1,782 円	104.0 円	1,872 円	107.0 円	1,926 円
個 缶	100.0 円	1,800 円	105.0 円	1,890 円	108.0 円	1,944 円

- ①「シーズン通し平均価格」は、1 ㍴ 102.15 円・18 ㍴ 1 缶 1,839 円(税込)です。
- ②シーズン中に 800 ㍴以上利用された方には、上記価格よりさらに「総量値き」を行います。総量値引き後の「シーズン通し平均価格」は、1 ㍴ 101.65 円・18 ㍴ 1 缶 1,830 円(税込)です。

### 2014 年度 夏灯油暫定価格

《お任せ給油価格(税込)》  
1 ㍴ 107 円  
1 缶 18 ㍴ 1,926 円

夏灯油価格は、例年通りお任せ給油のみとなります。仕入価格の変動によって暫定価格を変更することがあります。

## 宮城県生協連の活動

### ● 「第6回東京電力福島第一原子力発電所事故対策みやぎ県民会議」参加報告

3月25日(火) ホテル白萩において、「第6回東京電力福島第一原子力発電所事故対策みやぎ県民会議」(以下「県民会議」)が開催され、構成団体から56人、宮城県生協連から齋藤昭子県連会長理事が参加しました。

村井嘉浩知事の開会あいさつ後、議事に入りました。議題(1)「東京電力福島第一原子力発電所事故被害対策実施計画(第2期)」については、構成団体の意見等をうかがいながら、2016年度までの3年間の取り組み等をまとめた計画となっているとの説明でした。議題(2)「県民会議」

会則の一部改正については、「県民会議」をより機動的に運営し、迅速な情報提供を図るために、「県民会議」のもとに構成団体の事務局で構成する幹事会を置くことにしたとの説明でした。

「第6回県民会議」には、その他として、東京電力株式会社代表執行役石崎副社長から「東京電力福島第一原子力発電所事故対応の現状について」説明がありました。

「県民会議」に提出された詳細な資料は、県のホームページ「放射能情報サイトみやぎ」に掲載されています。

参加者からは、東京電力株式会社の説明に対し、汚染水問題や損害賠償問題への厳しい質疑が行われました。宮城県生協連からは、「原発事故で緑と水と食が汚染された。健康被害や食の安全、これらの不安について丁寧な対応を将来にわたって行うこと。子どもたちを放射能汚染から守っていこうとお母さん方のネットワークは、美しい春を迎えるふるさとを追われている福島のことを忘れない、風化させない、なかったことになんかしないと決意している」等の意見をのべました。

### ● 「2013年家計調査のまとめ」「2013年消費税しらべ」について記者発表しました

4月10日(木) 県政記者会にて、宮城県生協連の家計モニターによる「2013年家計調査のまとめ」「2013年消費税しらべ」について記者発表を行いました。

はじめに、加藤房子県連常務理事が、家計モニター登録226世帯による家計調査の概要と、2013年(1~12月)の特徴について、30~50歳代の妻の収入が前年より増加したこと、電気料

金の値上げや灯油の高値などの影響で水光熱費が増えたことを説明しました。

続いて、みやぎ生協の佐藤啓子さんから、「くらしのひろば2013年」の集計結果について、「通信費だけが5年間連続で増加していて、スマートフォンへの切り替えなどが影響していると考えられること。また2013年の消費税しらべによると、車



の買い替えや震災による家の修理などがあったため、173,151円だった。収入の少ない人ほど負担割合が大きくなっている。特に、年金世帯への負担が大きい」と説明しました。

### ● 「平成26年度宮城県食品衛生監視指導計画(案)」へ意見を提出しました

3月19日(水) 宮城県環境生活部食と暮らしの安全推進課食

品安全班宛に、意見を提出しました。また、消費者行政の充実

強化をすすめる懇談会みやぎも意見を提出しました。

みやぎ生協

● 「3.11 東日本大震災を忘れないつどい」

みやぎ生協は「3.11 東日本大震災を忘れないつどい」を、江陽グランドホテルで執り行い、全国の生協から 270 人が参加しました。

はじめに、震災で犠牲になられた方々を追悼し黙祷を行いました。続いて、齋藤昭子理事長



犠牲になられた方々へ黙祷を捧げました

が「震災を風化させないように活動を全国に訴え続けます」とあいさつ。ご遺族を代表して生協職員の植木由梨さんが「たくさんの方の支援を受けた恩返しをこれからしていきたい」と話されました。

生産者を代表して、志津川かき養殖部会の遠藤勝彦さんが「生きるための後押しをしてくれた生協の皆さんに感謝しています」と話され、宮本弘専務理事が「震災を忘れず、普通の暮らしを取り戻した



遠藤勝彦さん（志津川かき養殖部会）

めの活動を続けましょう」と決意を新たにしました。

みやぎ生協は、2014 年度も役員一丸となって、被災地の生協として最後の最後まで、この地域がより豊かになっていくよう努力していく決意を固め、希望の明日をつくるため協同の力を発揮します。

（機関運営課課長 稲葉勝美）

● 食のみやぎ復興ネットワークが日本農業賞「食の架け橋の部」で奨励賞を受賞

食のみやぎ復興ネットワークが、第 43 回日本農業賞「食の架け橋の部」奨励賞を受賞しました。日本農業賞はNHKと全国農業協同組合中央会が主催して、農業経営や技術の改革と発展に取り組んでいる農業者と営農集団を表彰するもので、1971

年から毎年 1 回開催されています。2004 年からは、農業者と消費者を結ぶ優れた活動や、未来の豊かな生き方・地域づくりへのヒントとなる食や農の活動を行っている団体や個人を表彰する「食の架け橋の部」が設けられました。

3月27日(木)「第43回日本農業賞表彰式」が、JAビルで開催され、宮本弘代表幹事に表彰状が授与されました。全国各地から推薦を受け、応募された 36 団体から選ばれたの受賞でした。震災前の状態を復活さ



2013年11/17日本農業賞現地審査  
(岩沼市寺島にて)



日本農業賞授賞式

せるだけでなく新たに特産品を生み出し、地域の魅力を掘り起こそうとしている点や、みやぎ生協などネットワークを構成している団体が当事者として被災地を支え続けていることなどが評価されました。(店舗商品本部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局 藤田孝)

みやぎ生協

● 「女性ネットみやぎ結成2周年のつどい」

宮城県内の幅広い女性達が参加する「子どもたちを放射能汚染から守り、自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ」（以下「女性ネットみやぎ」）の結成2周年のつどい「守ろう！子どもたちのいのち・未来」が、3月22日（土）フォレスト仙台第7会議室で開催され、会場を埋め尽くす133人の参加がありました。

11時30分から、映像作家鎌仲ひとみさんの監督作「内部被ばくを生き抜く」DVD上映があり、午後からは鎌仲さんによる

「原発は、もうたくさんだ」と題した講演がありました。福島原発による被曝放射線量よりずっと低いチェルノブイリで、毎年4,500人の子どもたちが国による長期滞在型の保養所を利用し、汚染地域から解放されリフレッシュしており、元気になった子どもたちの画像も示しました。鎌仲さんは「安倍政権の原発政策に対するには、身近な市や町や村を変えていくことが重要」と話されました。

その後、「第4回呼びかけ人会」が開かれ、鎌仲さんも交え



講師の鎌仲ひとみ監督（映像作家）

「互いの活動を広く知らせあって、女川原発再稼働ストップの活動につなげていきましょう」など、今後の活動について活発な意見交換がなされました。

（生活文化部・女性ネットみやぎ事務局 昆野加代子）

生協あいコープみやぎ

● 福島原発事故を忘れない！女川原発再稼働を許さない！

3月16日（日）錦町公園で開催された「3.16 NO NUKES みやぎ」には、1,500人もの方が集まりました。会場には脱原発を始め、自然エネルギー、放射能問題などをテーマにした多数のブース出展やステージが設けられました。

ゲストの福島原発告訴団団長



高橋千佳理事（集会アピール宣言）

の武藤類子さん、前美里町町長の佐々木功悦さんは、「未だ事故が続く現実、そして何を言われようと原発再稼働に反対する」という強い思いを伝えました。女川原発再稼働反対を訴える団体から「共に活動していこう」という呼びかけに対し、参加者から大きな拍手が沸き起こりました。

あいコープみやぎの高橋千佳理事が、集会アピールで最後を締めくくると、参加者全員が「福島原発事故を忘れない！女川原発再稼働を許さない！」という



長蛇のデモ行進

気持ちをひとつにし、一番町に向かってアピール行進を行いました。市民が声をあげる大切さを実感することのできる集会でした。

翌日、集会アピール文を東北電力本店に届けました。女川原発再稼働の動きに注視し、引き続き広く連携して活動していきましょう。（理事 砂子啓子）

松島医療生協

● 「被災3周年 3.16 東松島市被災者応援プロジェクト」

「さみしい・・・買い物できる店を・・・病院、お医者さんを・・・JR電車を！・・・」東松島市沿岸部（旧鳴瀬町の牛網・野蒜・新東名）の津波被災した家を修理し住んでいる自宅を訪問した時の「訴えや声」の一部です。

3月16日（日）全国の日本医



「笑顔の新年生」  
支援物資の  
手提げバックを  
手にして、につこり

療福祉生協連の仲間と松島医療生協の役職員総勢88人が、旧鳴瀬町地域の津波被災者宅287戸を訪問しました。全国からの特産品や日用品をお届けしながら、震災時の話や現在の生活について対話をしました。更に、仮設住宅2ヶ所でも、炊き出し・健康相談会も並行し行いました。

東日本大震災から3年が経過し、未だに東松島市の仮設住宅に多くの被災者が不自由な生活を続けていますが、世間では震災の風化が進み関心も薄れてき



訪問後の交流会

ています。

医療福祉生協連では、被災地を直接訪問し「歩いて・見て・聴いて」実態を把握し、今後の支援のあり方や進め方を検討するために行いました。又、現地医療生協として、今後の支援のあり方を再確認する取り組みになりました。

（被災地担当職員・小野潤一）

みやぎ県南医療生協

● 医療生協だからできる「健康づくり」を！

3月29日（土）の支援活動は、神戸医療生協5人、兵庫や東京の医学生ら23人、県南から7人が参加し、山元町牛橋区民会館で、健康講話会（大腸がんの話）、炊き出し、山元町花釜区の側溝上げ、Yさん宅での針きゅう師によるマッサージなどが行われ



手話で「ふるさと」を合唱しました

ました。

牛橋区民会館での支援活動は、「医療生協の健康サロン」として2013年12月から開催し、3月で3回目になります。毎回20人を超える地域の方が参加され、医療生協ならではの健康チェックや健康体操が行われています。

春休みを利用して参加してくれた医学生は、キーボードやギターの演奏やゲームなどを披露してくれました。昼食のカレーライスの炊き出し（100食）では、牛橋区のお母さんたちにもお手伝いいただき、医学生との



医学生による健康チェック

交流を深めることができました。

2014年度の支援活動は、医療生協だからできる「健康づくり」を中心に、定期的な支援活動を継続していきます。支援ボランティアの学習会も定例開催し、支援者の輪を広げていきます。また、専門職の継続的な派遣を近畿ブロックの医療生協にも働きかけ、被災された方の健康不安を少しでも和らげるように努めていきたいと思えます。

（常務理事 児玉芳江）

大学生協東北事業連合

● 被災高校より感謝の声 ～「未来の大学生応援募金」継続中！～

大学生協東北ブロックでは、2012年より「未来の大学生応援募金」の取組みを行っており、全国の大学生協組合員やお取引先などから2013年12月までに約1,100万円の募金が寄せられています。この募金の使途としては、岩手、宮城、福島の沿岸部を中心とした被災高校43校（後援会含む）に、「義援金」として総額1,075万円を送り、また、七ヶ浜町で月1～2回開催の「学習支援ボランティア」の

運営費用の一部とするなど、東北の子供達のために有効に使われています。

「義援金」をお送りした高校からは、学校運営の厳しい状況や被災した生徒の困窮した様子が、感謝の言葉を添えて多数寄せられており、義援金が有用であるということが分かりました。

東北ブロックではこれからも「未来の大学生応援募金」を継続し、引き続き被災地の子供達への支援活動を行っていきます。



【お問合せ】  
全国大学生協連 東北ブロック

(全国大学生協連

東北ブロック 齋藤庄元)

宮城労働者共済生協

● 社会貢献活動 全労済文化フェスティバル みやぎの子ども応援ミュージカル「あらしのよるに」 & 「やなせたかしのメルヘン絵本」等身大タペストリーの展示

全労済宮城県本部では、みやぎ生協をはじめ関係各位からご後援をいただき、「宮城の子どもたちを元気に」というテーマ

のもと、3月29日(土)電力ホールにおいて、全労済文化フェスティバルみやぎの子ども応援ミュージカル「あらしのよるに」の公演を行いました。900人(無料招待)の募集定員に対し、約4,200人というたくさんのご応募がありました。

当日は晴天にも恵まれ、また春休みの期間中ということもあり、たくさんのご家族の皆さまにご来場いただきました。今回の「あらしのよるに」は、テレビアニメや絵本、映画や小学校の教科書にも採用された話題作

です。ミュージカルという想像力を育む文化芸術に触れる機会が、お子さまの成長にとって少しでもお役にたてたのなら大変うれしいことだと思います。

また、同日同会場で「アンパンマン」の生みの親として知られるやなせたかし先生の「やなせたかしのメルヘン絵本」等身大の絵本タペストリーも展示しました。やなせたかし先生の心温まる世界観に触れ、多くの皆さまが熱心にご覧になっていました。

(専務理事 畑山耕造)



公演の様子(上)  
「やなせたかしのメルヘン絵本」等身大タペストリー(左)

宮城県高齢者生協

● 女川原発の再稼働反対と東北電力に申入れ

宮城高齢協は、泉区の「原発ゼロをめざす泉区民行動」の実



（東北電力仙台北営業所）  
申し入れの様子

行委員会に参加し、3月8日（土）午後から泉中央駅前広場で行われた宣伝署名行動に取り組みました。その後、原発なくせ3・8泉区民アクションの集会とデモ行進に参加しアピールしました。

3月12日（水）には、東北電力仙台北営業所に出向き、泉区

民アクション代表団として「女川原発の再稼働反対」の申入れ行動に参加しました。

3月18日（火）は、みやぎ生協黒松店の店舗前で「原発なくせ」と、宣伝署名行動を行いました。4月15日（火）にも同店舗前で行いました。

● 被災から3年「震災体験と復興を語り伝えるつどい」

3月30日（日）石巻市鹿妻南コミュニティハウスにて「被災から3年『震災体験と復興を語り伝えるつどい』」が開催されました。各地の高齢協7県から55人が参加しました。

永野三男理事長が開会あいさつ、高齢協連合会の市川英彦会長から主催者あいさつがありました。労協センター事業団、福岡、山形、長野、新潟、岩手からそれぞれの高齢協の震災支援活動について報告しました。

その後、石巻市議会議員、商工会議所女性会会長、地元の鹿妻南町内会会長から、震災当時の石巻の状況や現在の復興への取り組み報告がありました。これからの街づくりを具体的に推進していく力強い取り組みは、参加者に元気と感銘を与える深い内容のお話でした。

31日（月）は、女川町の宿泊

村協同組合エルファロを出発して、「フクシマ視察ツアー」に24人が参加しました。バスの中で原発問題を学習し、南相馬市・浪江町へ。

南相馬市では元小高町町長の江井績さんら3人がバスに同乗して道案内。昨年9月には「通行許可書」で浪江の街中を視察できましたが、今回は「復旧作業」の工事用車両のみということで、浪江町庁舎など町の入り口近辺を回り、南相馬市小高区の海岸近くにバスを乗り入れました。海岸の堤防は決壊したまま補修もされず、家々も流されたまま手がつけられていません。残った家々や街中にも人の姿はありません。

日中のみ出入りが自由になった江井さんの家で話を伺いました。「被災3年になり、道を隔てて『認定』違いで補償額が全



↑ つどいの様子 ↓  
フクシマ視察で話を聞く ↓



く違う中で、隣近所の人たちの間で気持ちが分断されてきている。やり場のない怒りは東電や国にではなく隣人だった人に向かっていく。時間が経過する中で、ますます人々の心は荒んでいくのか」と話され、何ともいえない重い気持ちになりました。「忘れないで」と訴えられました。

これからも高齢協は「自分の目で見て肌で感じる」復興支援の活動を継続していきます。

（専務理事 山田栄作）

東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター

● 「ひと」と「生業」の復興へのみち ～宮城の水産業の復旧・復興の今と未来を語る集い～

3月15日(土) 東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター(以下、みやぎ県民センター)主催、宮城県生協連後援による『「ひと」と「生業」の復興へのみち ～宮城の水産業の復旧・復興の今と未来を語る集い～』が、仙台弁護士会館4階会議室において開催され、医師や弁護士、学者、消費者など180人が参加しました。

宮城の水産業の復興は、岩手の「ひとのくらし、生業の復旧をやり抜く」という復興理念とは異なり、「創造的復興」の提唱で始まり、加えて漁業への民間企業参入を求める「水産特区」導入という知事の表明がありました。漁業者は、操業再開のためのガレキ処理に加え、「特区」とも対抗しなければならない立場に追い込まれたのです。

こうした悪条件の下でも漁業者の奮闘は、絶えることなく続いています。「愛する人を奪い、くらし、コミュニティ、歴史、文化を一瞬にして流し去った海だけでも、我々は今日もこの豊饒な海と向き合って生きてゆく」という漁業者の思いこそ、漁業復興の原点です。復旧・復興の主人公は、被災者自身であり、それを支える人々です。「ひと」こそが「創造的復興」の主

人公であり、私たちみんなが持ち合わせている思いと立場を同じくすることを目的に開催しました。

オープニングは、トランペット奏者の松平晃さんによる演奏があり、「東京ブギウギ」や「銀座カンカン娘」などのナツメロに会場の参加者は口ずさみながら、聞き入っていました。

続いてシンポジウムが行われ、みやぎ県民センター代表世話人の綱島不二雄さんをコーディネーターに、パネラーには、宮城県漁業協同組合の船渡隆平専務理事、石巻魚市場株式会社の須能邦雄代表取締役社長、株式会社阿部善商店社長で塩釜蒲鉾連合商工業協同組合の阿部善久理事長、東北大学大学院農学部片山知史教授、河北新報社編集局の寺島英弥編集委員の5人から、震災後の水産業の現状や沿岸部被災地域の状況などについて各々報告がありました。

その後、宮城の水産物における価格低迷や、東京電力福島原発事故からの放射能汚染水問題に係る風評被害についてなどの意見交換を行いました。

報告では、「震災により漁港



シンポジウムの様子(上)  
オープニングで演奏する松平晃さん(左)

や流通・加工施設の損壊、そして放射能問題によって沖合漁業、遠洋漁業もダメージを受けたこと」「漁業権制度や漁村自体の成り立ちに関わる水産業の根本を揺るがすような問題(漁港集約化、水産特区、高台移転、防潮堤等)が生じていること」「漁業が生業である沿岸部漁村においては、『まずは復旧』が現場ニーズであり、大規模な沿岸部の開発を含めた復興計画との矛盾を抱えたままで、震災後3年目を迎えていること」「今後の生活基盤の見通しが立たないまま、漁業者が漁村から離れていくことが危惧されること」などが出されました。

参加者から意見・質問が多数出され、復興に向けた課題について理解を深めました。

(常務理事 加藤房子)

## 宮城学院生協

### ● 「新入生歓迎パーティー」への取り組み

4月3日（木）宮城学院大学内にて、「新入生歓迎パーティー」を開催しました。

新入生の不安を少しでも和らげ、「多くの友だちを作っても



MGよさこいサークルからも新入生へ歓迎の舞い！

raitai!」という想いから実施された企画で、参加者は約400人を越えました。

毎年恒例の行事ですが、今年は学生委員が2人しかおらず、400人を超えるイベントを切り盛りできるのか不安でいっぱいでしたが、伊藤大専務理事や職員さん、学生事務局、グループリーダーをしてくれた総代さんなど、多くの仲間たちの力をお借りして、無事に終えることができました。何より、新歓を終えた後に「ありがとうございま

した！私たちのために、このような企画を設けていただけて嬉しかったです！」という新入生の笑顔が、本当に嬉しかったです。

どうしたら目標を実現できるのかを考え、実現に向かって取り組んでいくことのやりがい、あらためて感じました。

今後も、そういった企画にどんどんチャレンジしていきたいです。

（学生委員長 高橋恵）

## 大学生協みやぎインカレ

### ●東北生活文化大学で「大学生生活スタートセミナー」

みやぎインカレでは、1月12日（日）東北生活文化大学のAO・推薦入学予定者のために、「大学生生活スタート&保護者説明会」を開催し、82人の学生及び保護者の方に参加いただきました。

このセミナーは、「早い段階で合格が決まっているが、入学するまでに時間があるのに何をしたら良いかわからない」「先輩として、体験したことや、苦労したことなどを新入生に伝えたいがそうした場がない」などの意見を受け開催しました。

第一部は、大学入学準備として「大学生活を安全かつ安心に」「教科書や教材の購入方法」、第二部は、学びの一步として「大学時代に身につけたいこと」「社会人基礎力」「大学での学び」でした。中でも3人の先輩学生（3年：健康栄養、2年：子ども生活・食物栄養科）による実体験に基づいた報告は、参加者にいろいろとインパクトを与え大好評でした。

来年は、この企画を大学と協力して開催する方向で、検討チームをスタートさせる予定です。



《新入生のアンケートより》  
「たくさんのことに興味を持ち、積極的に取り組みたい」  
「いろいろ積極的に挑戦したい。特にボランティア活動をしたい」  
「たくさんの友達をつくる、たくさんの資格を取得する」  
「卒業までに、将来自分がやりたいことを明確にしたい」  
「就職試験に向けて知識をしっかりと身に付けたい」  
「コミュニケーション能力を身に付けたい」



（専務理事 青柳範明）

## 協同のとりくみ

### ● 「Aコープとみやぎ生協の協同店舗運営」の実施について

JA 全農みやぎ、みやぎ生協、JA 仙台および(株)エーコープ宮城は、JA 仙台松島支店新築工事に伴い、現在の「Aコープ松島店」並びに「みやぎ生協松島店」を閉店し、新しい取り組みとして JA グループとみやぎ生協(子会社)の協同のお店『A&COOP 松島店』を、オープンすることを決定いたしました。2015年8月の開店を目指します。

協同組合とは、相互に助け合い、よりよい暮らしを実現するための組織です。これまで、JA 全農みやぎとみやぎ生協は、(株)

パールライス宮城の設立、共同購入セットセンター等の運営、さらには東日本大震災の支援(仙台白菜プロジェクト、亘理そばプロジェクト等)、産消提携などの事業提携を強化させてきました。また、(株)エーコープ宮城店舗、みやぎ生協店舗は県産を含めた国内産農畜産物の消費拡大や地域社会の発展への貢献を目指していました。

新たに開設する「A&COOP 松島店」は、協同組合の強みを生かし、JA 農家組合員と生協メンバーの方々に、これまで以上のサービスと商品を提供いたし

ます。JA グループの総合力と、みやぎ生協の独自商品力を活かした積極的な店舗展開をすすめることにより、宮城県産農畜産物の消費拡大を更に図ってまいります。



(みやぎ生協生活文化部部長  
大越健治)

### ● 「TPP から食とくらし・いのちを守る 4.21 宮城県民集会」に約 1,500 人が参加

オバマ大統領の訪日を目前に控えた4月21日(月)、仙台市役所前「市民広場」において、「TPP から食とくらし・いのちを守る 4.21 宮城県民集会」が開催されました。TPP から食とくらし・いのちを守るネットワーク宮城に加盟する27団体から、約1,500人が参加しました。



はじめに、ネットワーク代表世話人で宮城県農業協同組合中央会の菅原章夫会長が主催者あいさつを行いました。続いて、TPP 交渉を取り巻く直近の情勢についての報告を、全国農業協同組合中央会の農政部農政課の金原由孟課長が行いました。ご来賓として、宮城県議会の渥美巖副議長から挨拶をいただきました。その後、各団体から6人の方から、TPP 交渉参加に断固反対の力強い意見表明をしました。「TPP 断固反対に関する決議」について、宮城県森林組合連合会の浅野浩一郎代表理事専

務から提案があり、採択されました。TPP 交渉からの撤退に向けて、東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター構成団体の宮城県労働組合総連合の吉田若葉事務局長からの発声に合わせ、参加者全員でガンバロー三唱を行いました。

閉会あいさつを、ネットワーク代表世話人で宮城県生協連の齋藤昭子会長理事が行った後、参加者は雨の降る中、横断幕やのぼりを手に仙台市青葉区商店街をデモ行進しました。

(常務理事 加藤房子)

# 平和のとりくみ

わたしたちは、「平和とよりよき生活のために」という生協のスローガンに基づく取り組みを行います。唯一の被爆国の国民として、核兵器廃絶を訴えるとともに、戦争放棄をうたった憲法 9 条を含めた日本国憲法のよさと大事さを学び、話し合い、多くの人々が平和を守るネットワークへ参加する活動を広げていきます。

## みやぎ生協

### ● 「沖縄戦跡・基地めぐり」報告会

3月25日(火)～27日(木)に、全国の生協の仲間 200人以上が沖縄に集まり、みやぎ生協からは親子コース3組6人、基本コース3人の9人が参加しました。

4月5日(土)には参加者からの報告会を開催し、日本国内での唯一の地上戦の悲惨さや、今なお74%が沖縄に集中する米

軍基地の状況などが報告されました。ひめゆり学徒が強いられた献身的な看護、仮設病院の洞窟での悲惨な生活、集団自決などが参加者ひとりひとりから語られました。

参加者からは「こんなに年数がたった後でも、沖縄で感じられることがたくさんあるということが伝わってきた」「沖縄戦



報告者の皆さん

の実相が、報告を通し理解することが出来ました」などの感想が出されました。

(生活文化部課長 沼沢美知雄)

### みやぎ憲法九条の会 「5.25 宮城県民大集会」を開催します

「特定秘密保護法」を強行採決した安倍政権は、消費税率 8%への引き上げ、TPP 推進さらに「集団的自衛権行使容認」へと「暴走」を続けています。震災からの復興は遅く、原発事故の収束のメドも立っていないのに原発再稼働の動きは強まっています。それぞれの課題で活動し集会を

成功させても、まだ安倍政権への支持率は高く暴走を止める力になっていません。

そこで、宮城県内九条の会連絡会など九条の会や、県内の諸団体が「5・25 宮城県民大集会」を準備しています。「みんなの声を大きく一つに集め、安倍政権の暴走を止めよう。みんなの

声をプラカードにし、オレンジウェーブ(アピール行進)しよう！」と呼びかかっています。

(事務局 佐藤修司)

※大集会の呼びかけ人 116 人、実行委員会への参加 46 組織(4月8日現在)



-被災地宮城からの発信-

『安倍政権に、私も言いたい!』宮城県民大集会  
～ともに声を上げよう! 平和で安心して暮らせる社会のために～  
◇2014年5月25日(日) 13:00～ ◇会場: 仙台市西公園

13:00～14:00 〈ライブ〉	①しろいしあけほの小倉太鼓 ②制服向上委員会 ③みやぎの合唱団
14:00～15:00 〈大集会〉	●講演/澤地久枝さん(作家・九条の会呼びかけ人) ●紹介/菅原文太さんのアピール ●リレートーク/10人が3分ずつ安倍政権に訴えます。 ※脱原発・TPP・集団的自衛権・教育等10のテーマ
15:15～ 〈アピール行進〉	西公園出発(約1時間)

【主 催】「安倍政権に、私も言いたい!」宮城県民大集会実行委員会  
【連絡先】仙台市柏木1-2-45 フォレスト仙台4階 TEL/FAX 022-718-8481

## 食育のとりくみ

食育は、自らありたい姿をめざし、個人や集団で学ぶものだと思います。また、食育を実践する場合は、食事と食生活を正しく理解できる知識とスキルを身につけ、それを実現できる「食の環境」を創り上げることが大切です。食育を実践していくにあたって、生協も率先して役割を発揮していきます。

### みやぎ生協

#### ● みやぎ生協の食育活動が「平成 26 年版食育白書」に紹介されます

内閣府が作成している食育推進に関する取り組み内容をまとめた報告書「平成 26 年版食育白書」に、「わが家の味噌作り体験」など、取り組み事例が紹介されます。白書では、「みやぎ生活協同組合では、組合員の食生活改善と健康づくり・豊かな

食文化づくり・自給率の向上を目指し、よりよい食の環境づくりのために、安全・安心な食品をバランスよく、そして楽しく食べることを子どもと一緒に学んでいく運動を進めている」と紹介されます。

(生活文化部課長 和賀恵治)

#### 【わが家の味噌作り体験】

JAみどりの田尻産直委員会との共同企画で味噌の原料の米・大豆を自分たちで育て、味噌作りをする「わが家の味噌作り体験」を、10年以上前から毎年開催しています。参加者は1年を通して計 13 回の体験会に参加し、大豆・お米がどのように味噌の原料になるのかを学び、実践します。産地を訪れて米の苗を種から育てて田植えをするほか、大豆と野菜の栽培にチャレンジし、参加者で育てた大豆で味噌作りをします。さらに収穫した野菜の販売体験や田んぼの生き物観察も行う、収穫の喜びや食べ物の大切さを実感できる内容です。



▲ 昨年の活動の様子

### 生協あいコープみやぎ

#### ● 講演会「今こそアスリートごはん！」

3月25日(火) 日立システムズホール仙台において、「今こそアスリートごはん！」と題した講演会を、特にスポーツ少年団にお子さんを加入させている保護者に向けて、サプリメントで体を維持するのではなく、日ごろの食事で作っていくことの大切さを学んでもらうことを目的に、NPO法人とうほく食育実践協会と共に開催しました。

講師は、早稲田大学スポーツ科学学術院准教授の田口素子さん(同スポーツ栄養研究所所長)です。参加者は約70人でした。スポーツをやっている子供たちは、運動に合った栄養だけでな

く、成長の為のエネルギーが必要となります。それにはバランスの取れた食事が基本となり、あとはその子の体力に合わせて量を調節することが大切です。そして遠征の時など、宿泊所のバイキング料理の中から自分に適した食品を適量選ぶことが出来ることが大切とのことです。また、世界的選手の中には意外

に食の細かい選手もおおり、その場合は、必要カロリーを数回に分けて摂取するよう指導をするなどの実例が紹介されました。

子どもたちにとって、家庭の食事は、アスリートになるための基礎訓練の場で、それを準備するお母さんは「食のコーチ」ということでした。

(副理事長 工藤恭子)



講師の田口素子さん  
(早稲田大学スポーツ科学学術院  
准教授)



講演後、ADIについて学ぶ

ADI(一日摂取許容量)とは、人が毎日一生涯食べ続けても健康に影響が出ないと考えられる量

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。介護が必要な人にとって、体のケアだけではなく、心のケアも念頭にいた利用者本位のケアプランが作成され、安心して介護サービスを受けられることが最も大切です。私たちは、知恵と力を合わせ、良質な介護サービス提供と健全な事業運営のためにいっそうの研修にはげむとともに情報を共有しネットワークをひろげ、もって要介護者と介護者の人権擁護(尊重)、地域住民の福祉向上に資することを NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護ネットみやぎ)の目的とします。

## ● 「より良い介護保険制度にするための要望書」を厚生労働大臣あて提出

厚生労働省は、2015年の介護保険制度改定に向けて、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律案」を今国会に提出し、国会審議が始まりました。今回の介護保険制度の改定は、地域包括ケアシステム構築にむけた施策強化を基本にしながらも、要支援1・2の対象者について介護保険本体の給付(予防給付)から、訪問介護と通所介護を外し、対応するサービスについて地域支援事業に再編成するなど厳しい内容です。これらが実施されれば、市町村によって受けられるサービスに格差が生じるなど予想されています。

介護ネットみやぎでは、高齢者が個人として尊重され、住み慣れた地域社会で自分らしく安心して生活できる社会保障としての介護保険制度の実現を求めするために、「よりよい介護保険制度にするための要望書」を参

加団体に呼びかけ、団体署名に取り組み、162事業所から提出いただきました。

3月6日(木)厚生労働省老健局振興課において、厚生労働大臣宛の要望書を提出し、懇談を行いました。(後掲)

齋藤境子理事長のあいさつ後、入間田範子副理事長から要望書提出の背景・経緯について説明しました。また、みやぎ生協から助け合いの会の概要・介護保険改定における今後の見通し、社会福祉法人こーぶ福祉会から事業所としての今後の懸念について説明し要望しました。懇談は1時間行われ、川部勝一課長補佐から法律案をもとに、今回の要望項目に関して説明がありました。現在出されている法律案の一部内容について、地域支援事業に移行するにあたり、従来の事業所は専門的なサービスが必要と判断されたことを前提に、市町村のみなし指定とする等の情報を得ました。



要望書を提出する齋藤境子理事長(左)

要 請 先	<p>【厚生労働省】田村憲久厚生労働大臣 ※ご対応:厚生労働省老健局振興課 川部勝一課長補佐 【衆議院議員】土井亨、秋葉賢也、西村明宏、伊藤信太郎、安住淳、小野寺五典、大久保三代、郡和子、井上義久、高橋千鶴子、林宙紀 【参議院議員】愛知治郎、熊谷大、高階恵美子、桜井充、若松謙維、和田政宗、中野正志、紙智子、大門実紀史 ※本人にお会いできた議員 秋葉賢也、郡和子、高橋千鶴子、紙智子、林宙紀</p>
参 加 者	<p>【介護ネットみやぎ】齋藤境子理事長、入間田範子副理事長、鈴木由美事務局長 【みやぎ生協】鳥田加奈枝理事 【こーぶ福祉会】鈴木孝志事務長補佐 【日本生協連】組織推進本部福祉事業推進部 山際淳部長、一宮正事務局長</p>

厚労省との懇談の前後には、地元選出の国会議員へ要望書の趣旨について説明にうかがいました。5人の国会議員にお会いし要望しました。

## ● 「介護保険法見直しに関する意見書の提出を求める陳情書」を県議会・市町村議会へ提出

3月5日に宮城県議会に対し陳情書を提出し、3月14日に

は、意見をすでに提出している大崎市を除く、県内34市町村議

会に陳情書を提出しました。(事務局長 鈴木由美)

## NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほくは、2014年3月3日特定非営利活動法人として成立し、今後は東北には未だない「適格消費者団体」認定を目指して活動していきます。消費者の皆さんの「安全・安心な生活を送る権利」が守られる社会の実現に向けて活動していきます。

### ● 「適格消費者団体学習講演会」を共催（山形県生活協同組合連合会主催）

3月8日（土）山形国際ホテルにおいて、山形県生協連との共催で「健全で公正な市場のための適格消費者団体の役割」について、国民生活センター理事長で元一橋大学教授の松本恒雄さんの講演会を開催しました。東北地方における適格消費者団体設立の意義、役割等の理解を

深める目的で開催し、消費者、学識者、弁護士、行政関係者など、73人が参加しました。

講演後、消費者市民ネットとうほくの鈴木裕美理事が当法人の活動について、小野寺友宏理事が東北における適格消費者団体設立に向けた活動について報告しました。



講師の松本恒雄さん  
（国民生活センター理事長）

### ● 宮城県知事宛に消費者教育推進計画の策定作業にあたっての要請書を提出しました

4月8日（火）宮城県知事宛に、消費者教育推進計画の策定作業にあたって、消費者教育推進法の目的を十分に踏まえた計画を策定するために消費者問題

を扱う関係諸団体にも広く意見を求めること、教育関係部署の職員も計画策定の中心メンバーとして関与させるような体制を整えること、宮城県消費生活審

議会での審議の原案に、委員の意見を反映させるような措置を講じることなどの要請書を提出しました。（後掲）

### ● 消費者市民ネットとうほく設立記念「キックオフ集会」開催

4月12日（土）消費者市民ネットとうほく設立記念「キックオフ集会」を、仙台弁護士会館において開催し、東北各県から、

弁護士、司法書士、学識者、消費生活相談員、行政職員、消費者団体や市民など49人が参加しました。

婚葬祭互助会の解約金条項、結婚式場の解約金条項、携帯電話の解約料条項他の差止事例についてご講演いただきました。



長野浩三さんの講演の様子  
（京都消費者契約ネットワーク理事）

「京都に学ぶ適格消費者団体の役割～京都に学ぶ楽しい適格消費者団体の運営方法～」と題して、京都消費者契約ネットワーク理事・弁護士の長野浩三さんの講演会を行いました。京都消費者契約ネットワーク設立の経緯、マンション賃貸契約、冠

講演後、小野寺友宏理事が消費者市民ネットとうほくの設立とこれからの活動について報告し、鈴木裕美理事は検討委員会の運営イメージについて寸劇を交えて報告しました。

（事務局 大場菊枝）

## 宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。2011年4月1日より「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織 宮城県ユニセフ協会」と名称が変更になりました。県内唯一の団体としてユニセフの広報・啓発・募金・学習支援などを活発に展開しております。(設立:1995年 会員数:一般・学生199人 団体4)

### ● アンソニー・レーク事務局長、被災地・宮城を再訪

アンソニー・レーク ユニセフ事務局長が2月23日から26日まで、外務省の賓客として来日しました。東京で政府要人と会談した後、東日本大震災後の2011年6月に訪れた女川町と仙台市を再び訪れ、地元の小中学生と交流、子どもたちが主体的に進める復興・防災の取り組みを視察しました。

2月25日(火)レーク事務局長は宮城県を訪問し、東日本大震災を教訓に“1000年後の命を守ろう”と『いのちの石碑プロジェクト』を進めている女川中学校の取り組みを視察しました。3年2組の教室ではアグネス大使とともに生徒と一緒に給食(ラーメンや笹かまもありました)を楽しみました。昼食後は、津波対策実行委員会の代表6人の案内で、昨年11月に学校敷地内

に建立された石碑を見学しました。“夢だけは壊せなかった大震災”と刻まれていました。震災の年の4月、1年生に入学した子どもたちは、3月には中学校を卒業します。入学後に生徒たち自身で考え、町内21浜の津波到達点に石碑を建てるという企画。費用1000万円を募金で集めました。20歳までに全部の石碑を建てることが目標とのこと。レーク事務局長は生徒たちひとり一人に励ましの言葉をかけ、「2015年3月に仙台市で開催される国連防災世界会議で、子どもたちの声を聞いてもらえるような仕組みを考えている。石碑を立てたみんなにも参加してほしい」とも話されました。

女川町を後にし、次は仙台市の七郷小学校を訪問。総合的な学習の時間で、子どもたちが大人になった時のふるさと七郷の姿を創造して、模型に表現した「未来の七郷まちづくり」の発表を1時間かけて、熱心に聞かれました。人:ユニバー



七郷小学校で「未来のまち」を見る

境:サステイナブルデザイン、防災:セーフティデザインの視点で創造しました。津波を防ぐシェルター、家の屋根にはソーラーシステム、光る道路、ふわふわ芝生の公園、ドッグラン、屋上で野菜栽培、イグネのある街など、現在の良いところを大いに取り入れ、夢があふれる未来のまちをたくさん見せてもらいました。レーク事務局長やアグネス大使の質問に、緊張しながらもきちんと答えている6年生はとても見事でした。自信を持って考えたまちづくり構想なのです。

学校訪問後、レーク事務局長は奥山恵美子仙台市長を表敬訪問しました。

(事務局長 五十嵐栄子)



「女川いのちの石碑」の前で、代表の生徒たちと

## 公益財団法人 MELONの活動

公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(Miyagi Environment Life Out-reach Network)MELONは、みやぎ生協・JA 宮城中央会・県漁協・県森連・日専連の県内で活動する協同組合が中心となって設立され、1995年12月に財団法人化し、2012年2月より公益財団法人に移行しました。MELONは、緑と水と食を通して地球と地球環境保全の活動を行なっています。会員数は個人695、法人80団体、任意団体13団体です。合計788です。(3/25 現在)

### ● 森林交流会 & 記念講演会「里山資本主義～地元を活かす豊かな暮らし～」

3月19日(水) せんだいメディアテーク1階オープンスクエアにおいて、「里山資本主義～地元を活かす豊かな暮らし～」を開催しました。これは今、話題の「里山資本主義」の講演会と森林活動団体の交流イベントです。

NHK 広島取材班と、(株)日本総合研究所主席研究員で地域エコノミストの藻谷浩介さんが共著した書籍「里山資本主義ー日本経済は『安心の原理』で動く」は、24万部を突破したベストセラーで、「豊かさ」や「価値」への考え方のシフトを説いた書籍です。定員200人のところ、事前申し込みの段階で定員を超えてしまい、関心の高さに驚きました。

MELON 里山応援団では、現



満員の会場の様子

在森林保全のために活動する団体のネットワーク作りを行っています。この日は講演会と同時に、市民レベルで森林整備や活用に取り組んでいる団体を紹介し、相互交流するための活動紹介展示ブースも設けました。ブースは15時からオープンし、早い時間帯の来場者は少なかったものの、逆にその間、出展団体同士が交流する良い機会となりました。

講演会は18時30分から開始しましたが、最終的に220人ほどの参加者となりました。

藻谷浩介さんのお話しは、来場者に質問を投げかけたり、笑いを交えながらの親しみやすいもので、いくつも事例を紹介しながらわかりやすく「里山資本主義」について解説していただきました。

「東北には森も食も地熱などのエネルギー源もたくさんある。それがこれからの価値になる」「水と食料とエネルギーを、お金だけでなく人のつながりで得られることが安心につながり、何かあった時に生き残っていける」「東北



講師の藻谷浩介さん  
(日本総合研究所主席研究員)

はこれからの日本の中心になれる」といった熱いメッセージとともに、東北で活動する来場者に大きな力をくださいました!

来場者からも大変好評で、「話題が豊富で次々に展開される話術に吸い込まれ、最後まで楽しく聞いてしまった」「東北のものを大切にして誇りを持って使いたいと思った。お金を地元で回すことは大切だと思った」といったたくさんのご感想をいただきました!

今回のお話で気づいたこと、感じたことを、ぜひひとつでも行動にしてほしいと、切に願います。(事務局統括 小林幸司)

※このイベントは平成25年度宮城県「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業(県民提案型森林づくり支援)」の協力を得て実施しました。

## 行事予定

### NPO 法人介護ネットみやぎ 「2014 年度総会 & 記念講演」

- 日時：2014 年 6 月 12 日(木)

記念講演 13:30～14:40

総会 15:00～16:00

- 場所：フォレスト仙台 2 階 第 7 会議室

- \* 記念講演定員：70 人
- \* 参加費：無料
- \* 託児：なし

#### 【お問い合わせ】

NPO 法人

介護ネットサービス非営利団体ネットワークみやぎ

住所：仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F

TEL:022(276)5202 FAX:022(276)5205

#### 記念講演

### 「佐久市における

### 在宅医療連携拠点事業について(仮題)」

～顔の見える多職種連携を推進・医療と介護の連携を推進～

講師 地域ケア科医長 小松 裕和さん

佐久総合病院在宅医療連携拠点事業責任者

地域包括ケアを実現するためには様々な課題があります。重要な課題のひとつとして、医療と介護の連携です。

佐久市は平成25年度から平成27年度にかけ、『在宅医療連携拠点事業』に取り組んでいます。佐久総合病院は、多職種連携の促進の分野が事業委託されており、佐久市と協働のもと『佐久市における医療・介護の連携推進』を目指しています。小松裕和先生に佐久総合病院の取り組みについて、お話いただきます。



### 消費税ネット 「第 1 2 回総会 & 記念講演」

4 月から消費税が 8%に引き上げられ負担が家計にずしりとのしかかります。中小事業者は、そもそも消費税分を価格に転嫁できていないところに増税になり、ますます身を削らざるを得ない状況にあります。『これではやっていけない』という声が増しに強くなっています。

消費税が導入されてから、社会保障は自己負担費用の増加、給付・支援の減少と悪くなるばかりです。復興のために、税率 10%阻止に向け、みんなで「NO!!」の声を上げましょう。

- 日時：2014 年 6 月 24 日(火)

総会 13:30～14:20 記念講演 14:30～16:00

- 場所：仙台市戦災復興記念館 5 階会議室

- \* 記念講演定員：100 人
- \* 参加費：無料
- \* 託児：なし



【問い合わせ】 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城事務局

住所：仙台市青葉区本町 2-16-12 仙台商工会議所

担当：小野寺(日専連宮城県連合会気付) TEL:022-266-3541 FAX:022-267-6654

#### 記念講演

講師 神戸大学名誉教授 二宮厚美さん



#### 【講師紹介】

神戸大学名誉教授 専攻は経済学、社会環境論 (著書) 安倍政権の末路 アベノミクス批判、福祉国家型財政への転換、新自由主義からの脱出、保育改革の焦点と争点 ほか多数

「消費税アップで、社会保障は充実するのか？」